

9/8 (土) ~9/23 (日) の毎週末 夜間開園

展示会のご案内

◇展示温室 (8/25~9/2)

変化朝顔展

◇展示資料館 (7/28~9/5)

ボタニカルアート作品展

オミナエシ (オミナエシ科)

秋の七草として知られていますが、実際の開花期は盛夏です。日当たりのよい草地に黄色の花を咲かせます。近くでは、キキョウやカリガネソウなども咲いています。

熱帯
スイレン
温室
休館中

変化朝顔

江戸時代から続く古典園芸で、葉や花の多彩な変化を楽しめます。約200鉢の植物と朝顔に関する作品を展示しています。

タマゴノキ (フクギ科)

インド南部からマレー半島に分布する熱帯果樹で、マンゴスチンの近縁種です。別名は黄脂桃(キヤニモモ)、果肉に蠟物質を含みます。

ハマオモト (ヒガンバナ科)

アジアの広域に分布する海浜植物で、分布の北限は年平均気温 15℃の線と一致します(ハマオモト線)。現状、県内には自生地はありません。夜咲く花の一つで、夕方から咲き始め、夜中に満開になると芳香が漂います。

ナツズイセン

(ヒガンバナ科)

スイセンと名前がついていますが、ヒガンバナのなかまです。中国から古い時代に渡来した帰化植物と考えられています。葉は春に出て、花が咲く時期には枯れています。

キササゲ

(ノウゼンカズラ科)

和名は木になるササゲ豆から。果実は利尿作用があるので薬に用いられます。古い寺社に植えられているのをたまに見かけますが、これは樹高が高く、水分を多く含むことから、「避雷針」としての効果も期待したものです。

キバナコスモス

(キク科)

花の迷路ではキバナコスモスが満開です。迷路の楽しさと花の美しさをご堪能ください。

グロリオサ

(イヌサフラン(ユリ科))

熱帯アフリカ原産の球根植物。葉の先端が巻きひげとなって支柱にからみついて伸びていきます。赤い目立つ花が咲いています。近年切花として人気のある植物です。球根に毒があるので食べてはいけません。

トチノキ (ムクロジ科)

立体駐車場の北側出口の木に実がたくさんついています。「栃の実」はアク抜きすると食べられるので、山間部では貴重なタンパク源でした。栃木の由来とも言われています(諸説あり)。街路樹に用いられ、歌謡曲のタイトルとしても有名なマロニエ(セイウトチノキ)も同属の植物です。

